



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	2018年度 東京学芸大学附属高校研究活動（研究会・講演会・国際交流活動）一覧( fulltext )
Author(s)	
Citation	研究紀要 / 東京学芸大学附属高等学校(56): 1-5
Issue Date	2019-03-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/150808">http://hdl.handle.net/2309/150808</a>
Publisher	東京学芸大学附属高等学校
Rights	

## 2018年度 東京学芸大学附属高校 研究活動（研究会・講演会・国際交流活動）一覧

List of academic researches and activities of the school (2018)

### 1. 第17回公開教育研究大会

日時：平成30年11月23日（金）

研究主題：

- コンピテンシー・ベースのカリキュラム開発(3)
- カリキュラム・マネジメントの前にすべきこと-

#### 公開授業Ⅰ

<p>国語 国語総合 浅田孝紀</p> <p>文芸評論を比較する</p> <p>1限は新カリを睨み、同一作品に関する2つの文芸評論を比較し、両者の内容をどう評価するかを考える。2限はこの授業に関し協力者と一緒に「対話型授業検討会」を実施する。</p>
<p>地理歴史 日本史A 安井 崇</p> <p>帝国主義などの概念を共有した日本史A・世界史Aの授業</p> <p>歴史総合の設置を念頭に、帝国主義などの共通の概念をもとに日本史A・世界史Aの授業を構想・実践することにより、知識の蓄積にとどまらない「視点」や「方法」を意識した歴史学習のイメージを生徒に伝えることめざす。</p>
<p>公民 現代社会 山北俊太郎</p> <p>イスラーム検定をつくろう</p> <p>イスラームについて、地理・歴史・倫理で教えられる断片的な知識を生徒はどのように統合していくのか。ムスリムが給食のハラール対応を要求した静岡県の事例を参考に、実際にムスリムの方にインタビューしながら、イスラームを理解することについて生徒とともに探っていく。</p>
<p>理科 地学基礎 田中義洋</p> <p>自然環境の変化をとらえる</p> <p>これまで、地球の形と大きさ、地球内部の層構造、岩石と鉱物、地層の形成と地質構造、古生物の変遷などを学習している。これまでの学習内容を活用して地球環境の変化を生徒がとらえることを主眼とした授業を行う。</p>

<p>保健体育 体育 福元康貴</p> <p>持久走の導入 ～自分に合った走りを探ろう～</p> <p>技術要素に乏しく、長時間の苦しみと引き換えに達成感だけを味わわせてくれる長距離走。今ひとつ積極的な取り組み姿勢を得られないが、今回導入時のフォームを中心とした自らの走りを自分なりに実践・検証し、独自の技能で持久走授業に取り組みさせたい。</p>
<p>芸術 音楽Ⅰ 居城勝彦</p> <p>歌唱表現を深める</p> <p>演奏表現を深めるためには楽曲理解が欠かせない。今回は楽曲の成立背景特に作詞者への理解を通して歌詞に綴られた言葉の意味を考え歌唱表現を深めることを狙い、司書によるブックトークを取り入れる。</p>
<p>外国語 英語表現Ⅰ 光田怜太郎</p> <p>音声を中心にした英文法定着活動</p> <p>1つのパラグラフをいくつかの文に分けて班にあたえ、班員一人一人が自分の担当した文を覚え、その順番を英語で議論するという活動（ストリップストーリー）を通して、実際に英語を用いる過程で文法を定着させる活動を行います。</p>

#### 公開授業Ⅱ

<p>国語 国語総合 浅田孝紀</p> <p>文芸評論を比較する</p> <p>(公開授業Ⅰより継続)</p>
<p>地理歴史 世界史A 小太刀知佐</p> <p>帝国主義などの概念を共有した日本史A・世界史Aの授業</p> <p>歴史総合の設置を念頭に、帝国主義などの共通の概念をもとに日本史A・世界史Aの授業を構想・実践することにより、知識の蓄積にとどまらない「視点」や「方法」を意識した歴史学習のイメージを生徒に伝えることをめざす。</p>

<p>数学 数学Ⅰ 大谷 晋 平均値が高いと本当に優れているの？ 2つの集団で平均値が異なる時、平均値の高い集団は、もう一方の集団と比べて本当に優れているといえるのだろうか？平均値の違いは、たまたま起こったのではないだろうか？身近な現象で考察していきたい。</p>	<p>家庭科 家庭基礎 阿部睦子 衣生活から社会の持続性を考えよう SDGsなど持続可能な社会の構築が求められる中で、衣生活を送る上で発信できる事柄を考える。衣服の生産に目を向けた消費生活の重要性など視点を広く持たせることも考えられる。</p>
<p>理科 物理基礎 市原光太郎 幾何光学の基礎 物理基礎には光の分野は無いのだが、本校の授業の都合上、物理基礎(2年全員必修)の授業内で扱っている。簡易な実験を元に、幾何光学のベースとなる「光はどのように進むか」に根拠を持って答えられるようにする。</p>	<p>外国語 コミュニケーション英語Ⅰ 加藤 淳 暗唱で終わらせないリテリングの指導 リテリングは生徒にとって難度が高く、多くの場合本文を丸暗記しそれを再生するという形で終わることが多い。本授業ではいくつかのポイントを提示することで、この課題にどう迫ることができているかを検討する。</p>
<p>理科 化学基礎 成川和久 金属のイオン化傾向 金属イオンが単体となり析出すると同時に金属の単体が陽イオンになる金属樹の実験を通して金属の水溶液中で陽イオンへのなりやすさ(イオン化傾向)を学習した酸化還元と関連つけて学ぶ。また、金属単体のイオン化傾向を比較する実験も行う。</p>	<p>研究協議会 国語 浅田孝紀 「対話型授業検討会」について—新教育課程を見据え、従来型の協議会とは異なる授業検討のあり方を考える— 助言講師 渡辺貴裕 東京学芸大学教職大学院教育実践創成講座准教授</p>
<p>保健体育 体育 福元康貴 持久走の導入 ～自分に合った走りを探ろう～ (公開授業Ⅰより継続)</p>	<p>地理歴史 安井 崇 小太刀知佐 歴史学習における「概念」と「思考力」 助言講師 大森淳子 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官</p>
<p>芸術 美術Ⅰ 神田春菜 日本美術の文化について理解を深める 日本美術の表現の特徴や様式について理解を深めることを目標とします。屏風や障子、掛け軸などの作品の鑑賞と比較や、国語総合(古典)で学習する「伊勢物語」を主題とした絵巻物を制作と鑑賞を通して学習します。</p>	<p>公民 山北俊太郎 ムスリム理解を促す地歴公民科の在り方 助言講師 荒井正剛 東京学芸大学人文科学講座教授・小林春夫 東京学芸大学人文科学講座教授</p>
<p>芸術 音楽Ⅰ 居城勝彦 歌唱表現を深める (公開授業Ⅰより継続)</p>	<p>数学 数学科 生徒の数学的活動を促す統計教育のあり方 助言講師 高橋弘 東京学芸大学自然科学系准教授</p>
<p>芸術 書道Ⅰ 荒井一浩 書の美を捉えて書こう 楷書および行書の古典から各自の関心に基づいて取り組む課題を選定し、その書風を捉えて臨書することを目指す。個人で考え、グループで検討し、お互いに学び合う中で新たな発見をするように働きかけを行いたい。</p>	<p>理科 理科 目指すべき理科の教育課程 助言講師 鶴岡義彦 元千葉大学教育学部理科教育講座教授</p> <p>芸術 芸術科 芸術科からみたカリキュラム・マネジメント 助言講師 相田隆司 東京学芸大学美術書道講座教授・中地雅之 東京学芸大学音楽演劇講座教授・加藤泰弘 東京学芸大学美術書道講座教授</p>

家庭科 阿部睦子 持続可能な社会を見据えた被服学習 助言講師 望月一枝 日本女子大学客員研究員
保健体育 福元康貴 持久走の指導と評価 助言講師 山本浩二 文教大学教育学部准教授
外国語（英語）光田怜太郎・加藤 淳 音声を通じた文法指導 助言講師 金谷憲 東京学芸大学英語科教育学名誉教授

#### シンポジウム

テーマ BYOD の可能性 - カリキュラム・授業づくり の観点から - 発表者 高橋純先生 東京学芸大学教育学講座准教授
---

<理科>坂井英夫 電池の製作とその評価をテーマとした探究的活動のた めの教材開発 <理科>岩藤英司 高校生が取り組む学際的な探究活動について <保健体育>齋藤祐一 ICT 活用における教員の負担感に関する事例的研究— 映像資料の利活用について— <家庭>阿部睦子 生活文化を意識した家庭科ガイダンス <生活指導>齋藤祐一・坂井英夫 生徒視点のスマホ使用に関する意識調査 <あり方>齋藤洋輔 校内研究体制の整備と課題
--

## 2. 授業実践研究会

第1回授業実践研究会「探究活動」

日時：平成30年6月14日（土）

内容：探究講座（1年次）授業公開，本校の探究授業の  
 紹介，探究授業についての意見交換会

講師：岡本尚也先生 一般社団法人 Glocal Academy 代表  
 理事

第2回授業実践研究会「英語」×第9回教員 ITC

日時：平成30年11月25日（土）

内容：Intensive Training Course，協議会

講師：金谷憲先生 東京学芸大学英語科教育学名誉教授

## 3. 第60回全附属高等学校部会研究大会

日時：平成30年10月26日（金）～27日（土）

会場：広島大学附属中・高等学校

分科会：理科分科会，保健体育科分科会，家庭科分科会，  
 生活指導分科会，附属のあり方分科会

講演者：原田浩 氏（広島平和記念資料館元館長／広島  
 市文化財団元理事長）

分科会発表者：本校関係

## 4. 平成30年度

### 東京学芸大学附属学校現職教員研修講座開講一覧

(全科)「授業公開」 授業期間中随時
(国語)「高校国語科における演劇の鑑賞指導」 平成30年11月
(地歴)「地理における野外実習の実際」 平成30年6月1日 東京都心部（旧江戸城外濠跡周辺）
(数学)「数学的活動を促す授業づくり」 平成30年8月30日
(理科)「夏期特別実験講座物理 体験講習会」 平成30年7月10～12日 「夏期特別実験講座化学 体験講習会」 平成30年7月10～12日 「地学科公開研究会 野外観察講座」 平成30年10月30日 城ヶ島（神奈川県）
(公開教育研究大会)「第17回公開教育研究大会」 平成30年11月23日
(SSH)「スーパーサイエンスハイスクール 事業報告会」 平成31年3月14日

5. 東京学芸大学附属学校研究紀要

第46集(平成30年末発行)本校教員掲載論文 なし

6. 本校奨励研究:今年度該当なし

7. 国際交流来校・派遣

①タイ王国 プリンセス・チュラポーン・サイエンス・カレッジチェンライ校(PCCCR)との交流プログラム 平成30年4月17日(火)～24日(火) 生徒10名 教師3名 タイ王国より受け入れ
②サクラサイエンスプラン学校交流プログラム 平成30年4月18日(水) 藤嶋昭氏(東京理科大学元学長)ご講演 生徒96名 教師16名 タイ王国・インド・マレーシアより受け入れ
③タイ王国 シーナカリン高等学校訪問 平成30年6月13日(水) 教師4名 来校
④韓国カリム高等学校との交流事業 平成30年7月31日(火) 生徒26名 教師3名 来校
⑤スウェーデン ウメオ大学視察 平成30年9月28日(金) 教師2名 視察
⑥JENESYS2018 中国高校生3陣 平成30年12月5日(水) 中国からの訪問に合唱部・ダンス部が歓迎会に参加
⑦タイ王国 プリンセス・チュラポーン・サイエンス・カレッジチェンライ校(PCCCR)との交流プログラム 平成31年1月15日(火)～22日(火) 本校生徒14名 教師3名 タイ王国へ派遣
⑧中国 石室中学視察 平成31年1月21日(月) 教師5名 視察

8. 講演・SSH・SGH アソシエイト関係事業

および30年度特別授業等

宇宙人文学講座 PCCCRとの交流でポスター発表 平成30年4月20日(金) 「宇宙人文学とは何か」「宇宙人文学研究(1)～(8)」の講義 平成30年5月26日, 6月16日, 7月14日, 7月18日, 9月29日, 11月10日, 12月1日, 平成31年1月26日
--

参加生徒37名 京都大学宇宙ユニットシンポジウム参加 平成31年2月9日(土)～10日(日)
全国SSH生徒研究発表会 平成30年8月7日(火)～9日(木) 「天然素材を用いたろ過による水質の変化について」 参加生徒1名
SSH第10回マスマフェスタ(全国数学生徒研究発表会) 平成30年8月25日(土) 「n進レブユニット数が合成数になるための条件」 「n次元空間内のオイラー線についての考察」 「自然数の二つ飛ばしの和と素数, およびその発展」 参加生徒3名
日本学生科学賞東京都大会 「砂ガラスの発色に関する考察」 応募生徒2名
日本地質学会第125回学術大会 高校生セッション参加 平成30年9月9日(日) 「三浦半島・三崎層に見られる皿状構造の粒子配列についての考察」 「相模湾北岸における現生有孔虫の分布の特徴」 参加生徒5名
日本動物学会第89回北海道大会高校生ポスター発表参加 平成30年9月15日(土) 「ツボウムシにおける獲得形質の出現」 参加生徒1名
東北スタディツアー2018 「防潮堤建設と合意形成」 平成30年9月21日(金)～24日(月) 参加生徒20名
高校生によるMIMS現象数理学研究発表会 平成30年10月7日(日) 参加発表1名
日本経済新聞社主催講座 「自分で仮説を立ててみよう～未来の宝探し～」 吉野彰氏(旭化成(株)名誉フェロー) 平成30年11月5日(月) 参加生徒63名
山形大学特別講義実験および石巻ボランティア 平成30年11月17日(土)～18日(日) 栗山泰直氏(山形大学教授) 参加者生徒18名

<p>東京都 SSH 生徒研究発表会 平成 30 年 12 月 23 日（日） 口頭発表 「三浦半島・三崎層に見られる皿状構造の形成条件についての考察」 ポスター発表 4 件 参加生徒 7 名</p>	<p>SGH-A 留学生参加授業（英語） ①平成 30 年 6 月 12,18,19 日 ②平成 30 年 11 月 5,6,7 日 ③平成 30 年 11 月 28 日,12 月 4 日 ④平成 31 年 1 月（予定） ⑤平成 31 年 2 月（予定） 参加生徒 64 期（第 2 学年）全員</p>
<p>理系女子のための講演会 川合真紀氏（分子科学研究所長・日本化学会会長） 平成 30 年 12 月 14 日（金） 参加者生徒・保護者 78 名</p>	<p>「平和構築」「合意形成」「アジアの中の日本（語学講座）」 ※探究活動内で実施 「平和構築」 5 月 26 日（土）「難民問題を考える」 穂積武寛氏（難民を助ける会） 6 月 16 日（土）「シリア問題について考える」 華井和代先生（東京大学公共政策大学院特任助教） 7 月 14 日（土）「平和構築とは」 上杉勇司先生（早稲田大学教授）</p>
<p>マスフォーラム（数学生徒研究交流会） 平成 30 年度 12 月 22 日（土） 口頭発表 2 件，ポスター発表 3 件</p>	<p>「合意形成」 5 月 26 日（土）「地域づくりのために」 ※本校の探究活動が NHK で紹介（番組『明日へ』） 6 月 16 日（土）合意形成について考える 猪原先生（東京工業大学教授） 7 月 14 日（土）NHK 訪問 被災地でドキュメンタリーを作成した棚谷・大野ディレクターによる講義</p>
<p>京都大学高大接続プログラム 高校生のためのポスターセッション 2018 in 京都大学 平成 31 年 3 月 16 日（土） 「好きな色とパーソナリティ～色の持つ意味～」 「音の周波数と豆苗の成長の関係」 参加生徒 2 名</p>	<p>2018 Tsukuba-UBC Global Leaders Program（国内研修及びカナダ短期留学） 平成 30 年 4 月～7 月国内研修，7 月・8 月カナダ研修，8・9 月レポート・プレゼンテーション 参加生徒 2 名</p>
<p>関東近県 SSH 生徒研究発表会 平成 30 年 3 月 21 日（日）</p>	<p>2018 Junior Global Leaders Program（筑波大学主催の国内研修） 平成 30 年 10 月・11 月国内研修 参加生徒 2 名</p>
<p>京都大学高大接続プログラム 京都大学出前授業（SGH-A 特別授業） 平成 30 年 11 月 21 日（水） 「『文系』ってどんなところ？——『民主主義』の研究を例に考えてみよう」 「ベーシックインカムについて」</p>	<p>2018 Tsukuba-HKU Global Leaders Program（香港短期留学） 平成 31 年 3 月 21 日～3 月 28 日 参加予定</p>
<p>2018 年度スーパーグローバルハイスクール全校高校生フォーラム 平成 30 年 12 月 15 日（土） 「Restoration and Reconstruction from the Great East Japan Earthquake」 参加生徒 発表 4 名 見学 12 名</p>	